

一般建築物石綿含有建材調査者講習修了考査(サンプル)

【問題1】 石綿の有害性についての記述の中で正しいものを選べ

- ア 石綿肺は大量に石綿を吸入することによって発症する。
- イ WHO では、吸入性石綿繊維は、長さと幅の比を2:1以上でかつ幅 $3\mu\text{m}$ 未満としている。
- ウ びまん性悪性胸膜中皮腫は、わが国では近年減少傾向にある。
- エ 通常の肺がんと石綿ばく露による肺がんは、病理組織型に差異がある。

【問題2】 石綿についての記述の中で不適切なものを選べ

- ア クリソタイルは蛇紋石群に属する。
- イ 石綿をその重量の0.1%を超えて含有する物は製造禁止の対象となる。
- ウ 6種類の石綿のうち、蛇紋石群に属するものは5種類である。
- エ 塊状の岩石であっても、これに含まれるクリソタイル等が繊維状を呈していない物は含まない。

【問題3】 建築物石綿含有建材調査に関する記述の中で不適切なものを選べ

- ア 建築物に係る事前調査は、適切な知識を有する者として厚生労働大臣が定めた者が実施しなければならない。
- イ 事前調査の対象は、建築物、工作物または船舶の解体または改修の作業を行うときである。
- ウ 事業者は、事前調査結果報告書に基づく調査の記録を3年間保存しなければならない。
- エ 事前調査として、対象建築物等のすべての材料は、必ず、設計図書等の文書で確認しなければならない。

【問題4】 石綿含有建材のレベル分類に関する記述の中で不適切なものを選べ

- ア 除去時の発じん性が比較的低いのはレベル3である。
- イ 石綿保温材はレベル2である。
- ウ 石綿耐火被覆板とセメント円筒は同じレベルである。
- エ 吹付け石綿はレベル1である。

【問題5】 石綿含有建材調査者の役割についての記述の中から不適切なものを選べ

- ア 調査者は、建築物等の解体・改修等を行う前に、石綿含有の有無を調査し、報告書を提出する役割がある。
- イ 対象となる建築物の着工時期にかかわらず、目視調査は必要である。
- ウ 石綿含有が不明な場合は、石綿有との「みなし措置」の判断をする場合がある。
- エ 調査者が、該当地域の住民に対し、調査結果の説明を行う場合がある。

【問題6】 建築物石綿含有建材調査についての記述の中から正しいものを選び

- ア 調査の総合的判断情報源は、設計図書等や管理者からの情報と目視調査からの情報の2種類である。
- イ 石綿の有無が不明な吹付け材、断熱材等の調査時は、必ず該当部位の湿潤化を行う。
- ウ 形態が「板状」の場合、書面調査で「無含有建材」と記載があれば石綿含有の可能性は無い。
- エ 調査が長時間にわたる場合は防じんマスクおよび帯電防止の作業衣を着用する。

【問題7】 石綿関係法令に関する記述の中で正しいものを選び

- ア 建築物の増改築時には、その規模に関わらず石綿を除去しなければならない。
- イ 大気汚染防止法では、石綿を「無機粉じん」と位置づけた。
- ウ 建築物の解体工事は、床面積の合計 500 m²以上から建設リサイクル法の「対象建設工事」の規模に該当する。
- エ 廃棄物処理法では、解体等で発生する「石綿含有廃棄物」を安定型処分場に埋立処分することとしている。

【問題8】 建築物石綿含有建材調査についての記述の中から不適切なものを選び

- ア 建築物の竣工年、改修履歴などの情報を入手することが必要である。
- イ 改修の事前調査では、改修箇所に関わらず全館全部屋が対象となる。
- ウ 解体の事前調査の調査手法は「目視・分析」である。
- エ 改修の事前調査の目的は「労働者保護や周囲への飛散防止」である。

【問題9】 建築基準法の「延焼の恐れのある部分」についての記述の中で不適切なものを選び

- ア 隣地境界線および道路の中心線が基準となる。
- イ 防火地域・準防火地域等では、「延焼の恐れのある部分」に十分な性能を持たせる必要がある。
- ウ 建物の2階以上では、基準線から5メートル以下の部分である。
- エ 建物の1階では、基準線から2メートル以下の部分である。

【問題10】 建築物の耐火性についての記述の中で不適切なものを選び

- ア 難燃材料の要求性能において、要求時間は5分間である。
- イ 合成被覆耐火構造とは、2種類以上の性質の異なる耐火被覆材を施し、鋼構造を形成するものである。
- ウ 鉄筋コンクリート造の柱やはりには、耐火被覆を施すことが必要である。
- エ 階数によって要求される耐火性能は異なる。

【解答】

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ア	ウ	エ	ウ	イ	イ	エ	イ	エ	ウ